

カナダ

2020年11月24日

海外調査部・トロント事務所

2019年のカナダ経済は、輸出や投資が低調で実質GDP成長率は1.7%にとどまった。財貿易は、輸出入とも前年比で小幅に増加した。対内直接投資は、エネルギー・鉱産物の流入超などにより、前年比19.3%増加した。対外直接投資は、米国以外への資金貸借などの「その他投資」がプラスに転じたことに加え、米国向けのM&Aが好調だったことにより57.2%増加した。通商面では、2020年7月にカナダ・米国・メキシコ協定（CUSMA）が発効したが、鉄鋼・アルミニウム製品をめぐる米国は再び追加関税を発動した。華為技術（ファーウェイ）幹部の逮捕に端を発した中国との関係悪化は解決に至っていない。

■実質GDP成長率は2年連続で減速

2019年のカナダ経済は、輸出や投資の低迷により実質GDP成長率は1.7%と、前年の2.0%を下回り、2年連続で減速した。サービス消費が好調だったことにより家計最終消費支出は1.6%増と堅調だったが、輸出は農具・漁具や原油などの減少により1.3%増にとどまり、総固定資本形成は知的財産生産物の減少や住宅投資の低迷により0.4%減少した。2020年は、新型コロナウイルスによる需要の減少により、カナダ銀行は5.7%のマイナス成長を見込む。

■輸出は鉱物性生産品や自動車などが増加

2019年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比1.2%増の5,449億カナダ・ドル（以下、Cドル）、輸入は0.9%増の6,015億Cドルで、いずれも微増となった。貿易収支は567億Cドルの赤字となり、赤字額は前年から9億Cドル減少した。

輸出を品目別にみると、シェア最大の鉱物性生産品（構成比26.5%）は2.3%増、自動車および関連部品（14.3%）は4.0%増、食料品、飲料など（3.6%）は7.2%増となり、いずれも小幅な伸びながら輸出の増加に寄与した。一方、卑金属（7.1%）は、鉄鋼・アルミニウム製品などが減少したことにより11.7%減となった。

国・地域別にみると、最大の輸出相手国の米国（構成比74.6%）は1.8%増となり、3年連続で増加した。輸出の約3割を占める鉱物性燃料などが増加した一方、木材は米国政府による相殺関税やアンチダンピング関税の影響により減少した。2019年5月まで発動されていた米国による追加関税の影響により、鉄鋼および同製品は11.2%減、アルミニウムおよび同製品は13.1%減となった。アジア大洋州（10.9%）は7.1%減少した。中国（4.1%）への輸出は、同国による輸入禁止措置の対象となった業種が大幅に減少したことなどにより16.6%減となった。カナダEU包括的経済貿易協定（CETA）

の暫定発効から3年目を迎えたEU28カ国 (8.3%) 向けは8.0%増加した。英国 (3.5%) は輸出の約7割を占める金が34.6%増と増加に転じたことから20.6%増、ドイツ (1.0%) は貴金属や航空機および関連部品が増加したことにより36.9%増と、それぞれ高い伸びを示した。その他地域では、サウジアラビア (0.5%) 向けは自動車および関連部品が80.0%増加したことにより53.1%増となった。

表1 カナダの主要品目別輸出入 (通関ベース)

(単位: 100万カナダ・ドル、%)

(HSコード、2桁)	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)			
	2018年		2019年		2018年		2019年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
鉱物性生産品 (25-27)	141,232	144,426	26.5	2.3	53,162	49,164	8.2	△7.5
自動車および関連部品 (87)	74,883	77,870	14.3	4.0	97,683	98,997	16.5	1.3
動物性および植物性生産品 (01-14)	42,746	42,261	7.8	△1.1	23,038	24,085	4.0	4.5
一般機械 (84)	37,918	39,273	7.2	3.6	89,361	91,986	15.3	2.9
卑金属 (72-83)	43,614	38,525	7.1	△11.7	41,140	37,882	6.3	△7.9
化学工業生産品 (28-38)	34,828	35,190	6.5	1.0	52,342	54,498	9.1	4.1
プラスチック・ゴム (39、40)	20,983	20,277	3.7	△3.4	30,399	30,064	5.0	△1.1
食料品、飲料など (16-24)	18,444	19,768	3.6	7.2	24,963	25,877	4.3	3.7
パルプなど (47-49)	20,879	18,572	3.4	△11.1	10,802	10,805	1.8	0.0
木材など (44-46)	18,412	15,442	2.8	△16.1	4,071	3,972	0.7	△2.4
電気機器 (85)	13,409	14,132	2.6	5.4	58,200	58,646	9.7	0.8
航空機および関連部品 (88)	13,084	14,105	2.6	7.8	10,873	12,096	2.0	11.2
家具・玩具など (94-96)	8,335	9,001	1.7	8.0	19,791	19,719	3.3	△0.4
精密機器など (90-92)	7,676	8,192	1.5	6.7	17,238	17,740	2.9	2.9
繊維および関連製品 (50-63)	3,304	3,308	0.6	0.1	18,715	19,567	3.3	4.6
その他 (上記以外)	38,704	44,537	8.2	15.1	44,186	46,430	7.7	5.1
合計	538,449	544,877	100.0	1.2	595,963	601,529	100.0	0.9

[注] 輸出は再輸出を除いた数値。

[出所] カナダ統計局

■輸入は一般機械や化学工業生産品などが増加

輸入を品目別にみると、主要品目の一般機械 (構成比15.3%) は前年比2.9%増、化学工業生産品 (9.1%) も4.1%増と、輸入全体の伸びに寄与した。輸入の16.5%を占める自動車および関連部品は1.3%と小幅な伸びにとどまった。石油・歴青油の輸入価格低下や鉄鋼セーフガードの発動により、鉱物性生産品と卑金属はそれぞれ前年の2桁増から減少に転じた。

国・地域別にみると、最大の輸入相手国の米国 (構成比50.7%) は前年比0.1%増と横ばいだった。自動車および関連部品や一般機械が増加した一方、カナダによる米国への報復関税措置の対象となっていた鉄鋼・アルミニウム製品などは減少した。アジア大洋州 (22.6%) は1.4%増加した。米国に次ぐ輸入相手国の中国 (12.5%) は、鉄鋼や電気機器の減少などにより0.7%減となった。EU28カ国 (12.9%) は5.0%増加した。フランス (1.4%) は航空機および関連部品が2倍超と大幅に増加したことにより20.9%増、スペイン (0.6%) は一般機械や鉱物性燃料などの増加により17.6%増となった。その他地域では、ペルー (0.6%) は、輸入の約7割を占める金が5.4倍と急増し2.5倍になった。

2020年上半期の貿易は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、輸出は前年同期比16.9%減の2,266億Cドル、輸入は16.6%減の2,543億Cドルといずれも減少し、赤字額は277億Cドルとなった。輸出を品目別にみると、鉱物性生産品はエネルギー需要の減少が輸出価格の低下を招き26.4%減、自動車および関連部品は、4月にカナダ国内の全ての自動車組み立て工場が操業を停止したことが響き39.6%減となった。輸入では、自動車および関連部品は国内需要の減退などにより37.8%減少した。繊維および関連製品は6.9%減となったが、不織布マスクは中国からの輸入が急増し9.4倍となった。

2020年上半期の輸出を国・地域別にみると、米国は前年同期比19.3%減少した。鉱物性燃料が29.4%減、自動車および関連部品が39.4%減となった。香港は、金が77.9%減少したことなどにより57.5%減となった。輸入では、米国は自動車および関連部品が41.4%減少、一般機械が19.1%減少し

たことから19.1%減となった。メキシコも自動車および関連部品の減少が寄与し、28.8%減少した。

■対日輸出は卑金属などの減少により4年ぶりに縮小

2019年の対日貿易は、輸出は前年比2.7%減の124億Cドル、輸入は1.9%減の165億Cドルと、輸出入ともに減少した。輸出は2015年以来4年ぶりの減少となった。対日貿易赤字は0.5%増の41億Cドルとほぼ横ばいだった。

輸出では、主要品目の鉱物性生産品（構成比31.6%）は、プロパンガスが初めて輸出されたことや、鉄鉱の増加などにより6.3%増となった。また、化学工業生産品（6.6%）は21.7%増加した。一方、卑金属（3.3%）は、アルミニウム塊やコバルトおよび同製品の減少により51.5%減となった。木材など（8.6%）は22.0%減少した。

輸入では、主要品目の自動車および関連部品（構成比38.0%）は、乗用車が減少に転じたが自動車部品が増加したことから2.8%増となった。電気機器（12.3%）は、変圧器や蓄電池が大幅に伸びたことなどにより18.8%増加した。一方、一般機械（23.7%）は、歯車やメカニカルショベルなどの減少により14.4%減となった。精密機器など（5.1%）は、速度計およびストロボスコープの減少により12.5%減少した。

2020年上半期の対日貿易は、輸出が前年同期比3.4%増の62億Cドルと増加したが、輸入は24.7%減の64億Cドルにとどまった。輸出では、化学工業生産品は医薬品が98.0%増と大きく増加したことにより61.6%増、動物性および植物性生産

表2 カナダの主要国・地域別輸出入（通関ベース）

（単位：100万カナダ・ドル、%）

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)			
	2018年		2019年		2018年		2019年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
NAFTA	407,407	413,627	75.9	1.5	341,417	341,974	56.9	0.2
米国	399,641	406,675	74.6	1.8	304,606	305,009	50.7	0.1
メキシコ	7,766	6,952	1.3	△10.5	36,811	36,965	6.1	0.4
アジア大洋州	63,939	59,400	10.9	△7.1	134,142	136,070	22.6	1.4
中国	26,824	22,379	4.1	△16.6	75,570	75,030	12.5	△0.7
日本	12,758	12,413	2.3	△2.7	16,836	16,512	2.7	△1.9
韓国	5,788	5,432	1.0	△6.2	9,454	9,616	1.6	1.7
香港	3,579	3,685	0.7	3.0	342	379	0.1	10.7
台湾	1,929	1,945	0.4	0.9	5,880	5,972	1.0	1.6
ASEAN	6,634	6,427	1.2	△3.1	18,083	20,159	3.4	11.5
インドネシア	2,111	1,902	0.3	△9.9	1,760	1,815	0.3	3.2
シンガポール	918	1,129	0.2	22.9	1,262	1,203	0.2	△4.7
ベトナム	1,048	960	0.2	△8.4	5,387	6,988	1.2	29.7
タイ	740	844	0.2	14.1	3,562	3,744	0.6	5.1
マレーシア	736	759	0.1	3.1	2,982	2,848	0.5	△4.5
その他	1,080	833	0.2	△22.8	3,130	3,561	0.6	13.8
インド	4,223	4,773	0.9	13.0	5,125	5,282	0.9	3.1
オーストラリア	1,706	1,900	0.3	11.4	2,102	2,338	0.4	11.2
EU28カ国	41,901	45,266	8.3	8.0	73,674	77,382	12.9	5.0
英国	15,915	19,195	3.5	20.6	9,206	9,225	1.5	0.2
ドイツ	4,034	5,521	1.0	36.9	19,086	19,325	3.2	1.3
オランダ	4,473	4,865	0.9	8.7	4,527	4,663	0.8	3.0
フランス	3,137	3,294	0.6	5.0	7,193	8,693	1.4	20.9
イタリア	3,007	3,143	0.6	4.5	8,999	9,470	1.6	5.2
ベルギー	3,648	3,047	0.6	△16.5	4,450	4,964	0.8	11.6
スペイン	2,061	1,435	0.3	△30.4	2,973	3,496	0.6	17.6
アイルランド	763	819	0.2	7.4	2,960	3,020	0.5	2.0
その他	4,863	3,948	0.7	△18.8	14,283	14,527	2.4	1.7
サウジアラビア	1,799	2,753	0.5	53.1	3,809	3,275	0.5	△14.0
ノルウェー	2,356	2,108	0.4	△10.5	2,250	1,517	0.3	△32.6
ブラジル	2,052	2,077	0.4	1.2	5,510	5,401	0.9	△2.0
トルコ	1,267	1,566	0.3	23.6	2,337	1,964	0.3	△16.0
スイス	1,779	1,327	0.2	△25.4	4,596	4,947	0.8	7.6
バングラデシュ	643	1,244	0.2	93.5	1,718	1,969	0.3	14.6
ペルー	723	736	0.1	1.9	1,423	3,590	0.6	152.3
エジプト	377	726	0.1	92.7	911	1,051	0.2	15.3
ロシア	490	591	0.1	20.6	1,475	1,863	0.3	26.3
合計（その他含む）	538,449	544,877	100.0	1.2	595,963	601,529	100.0	0.9

〔注〕 輸出は再輸出を除いた数値。アジア大洋州は、ASEAN+6（日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド）に香港、台湾を加えた合計値。

〔出所〕 カナダ統計局

表3 カナダの対日主要品目別輸出入（通関ベース）

（単位：100万カナダ・ドル、%）

(HSコード、2桁)	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2018年		2019年		2018年		2019年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
動物性および植物性生産品 (01-14)	4,308	4,461	35.9	3.5	59	66	0.4	11.1
鉱物性生産品 (25-27)	3,696	3,928	31.6	6.3	158	71	0.4	△55.3
木材など (44-46)	1,370	1,068	8.6	△22.0	2	2	0.0	13.5
化学工業生産品 (28-38)	673	818	6.6	21.7	622	759	4.6	22.0
卑金属 (72-83)	840	408	3.3	△51.5	783	902	5.5	15.2
バルブなど (47-49)	464	374	3.0	△19.5	33	32	0.2	△2.7
一般機械 (84)	277	280	2.3	0.9	4,578	3,916	23.7	△14.4
精密機器など (90-92)	256	224	1.8	△12.6	959	839	5.1	△12.5
食料品、飲料など (16-24)	183	172	1.4	△6.1	79	93	0.6	17.5
航空機および関連部品 (88)	168	144	1.2	△13.9	143	148	0.9	3.7
電気機器 (85)	89	110	0.9	23.7	1,713	2,035	12.3	18.8
家具・玩具など (94-96)	34	68	0.5	99.3	122	150	0.9	23.1
繊維および関連製品 (50-63)	51	62	0.5	22.7	74	77	0.5	4.8
プラスチック・ゴム (39、40)	61	54	0.4	△11.9	669	632	3.8	△5.6
自動車および関連部品 (87)	54	43	0.3	△21.5	6,100	6,272	38.0	2.8
その他 (上記以外)	235	201	1.6	△14.3	743	518	3.1	△30.2
合計	12,758	12,413	100.0	△2.7	16,836	16,512	100.0	△1.9

〔注〕 輸出は再輸出を除いた数値。

〔出所〕 カナダ統計局

品は小麦や大麦が好調だったことから7.8%増と、それぞれ輸出の増加に寄与した。一方、木材は30.5%減少した。輸入では、乗用車が32.5%減少したことにより、自動車および関連部品は26.1%減、歯車やメカニカルショベルなどが落ち込んだ一般機械が27.9%減、蓄電池などが減少した電気機器が21.1%減と、輸入の減少に寄与した。ジェトロが実施したアンケート調査によると、カナダでの新型コロナウイルス感染拡大を受け、カナダ進出日系企業のうち、生産を中断または減産した製造業企業の割合は、4月末に84.0%（うち中断40.0%）、5月末に87.5%（3.1%）に達した。また、ジェトロの「2019年度カナダ進出日系企業実態調査」によると、カナダ進出日系企業（非製造業含む）の日本からの調達比率は22.6%と、カナダ国外では米国（23.2%）に次いで高く、カナダ国内での生産・販売量の低下が日本からの輸入減につながったとみられる。ただ、6月に入り経済再開が進むにつれ、生産状況も上向いている。6月末時点で全ての回答企業が生産を再開し、9月初旬には半数の企業が通常どおりまたは通常以上の生産に回復している。

■対内直接投資はエネルギー・鉱産物が増加

2019年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー。対外も同様）は、前年比19.3%増の672億Cドルとなった。米国からの直接投資は34.9%増加した。M&Aが2018年の43億Cドルから2.9倍の125億Cドルに拡大したことが寄与した。また、米国以外からの直接投資は、グループ企業間の貸し付けなど「その他投資」が29.6%増加したことなどにより、7.9%増加した。業種別では、米ニューモント・マイニングによる同業のゴールドコープの買収などにより、エネルギー・鉱産物が前年の64億Cドルから3.1倍の194億Cドルに拡大した。また、持ち株会社は5.6倍の94億Cドル、金融・保険は1.9倍の91億Cドルに拡大したが、貿易・輸送は72.2%減少した。

対内直接投資残高は、前年比7.7%増の9,739億Cドルとなった。全体の半分を占める米国が9.0%増加した。欧州はスイスやオランダが増加したことにより6.3%増加し、アジア大洋州はオーストラリアや中国が増加したことにより3.4%増加した。中南米は9.2%、アフリカは30.9%とそれぞれ増加した。

2019年の対内直接投資の大型案件としては、米ニューモント・マイニングによる買収のほか、米大手の投資ファンド運用会社ブラックストーンによる不動産会社ドリーム・グローバル・リーートの62億ドルでの買収や、米玩具メーカーのハズブロによるエンターテインメント会社、エンターテインメント・ワンの約38億ドルでの買収など、米企業による買収が目立った。

表4 カナダの直接投資〈国際収支ベース、ネット、フロー〉

(単位：100万カナダ・ドル、%)

			対内直接投資			対外直接投資		
			2018年	2019年		2018年	2019年	
			金額	金額	伸び率	金額	金額	伸び率
国別	米国	M&A	4,314	12,459	188.8	13,638	23,319	71.0
		再投資収益	13,481	13,749	2.0	23,270	22,898	△1.6
		その他投資	5,918	5,786	△2.2	△3,384	△9,444	—
		計	23,713	31,994	34.9	33,523	36,772	9.7
	米国以外	M&A	10,715	8,506	△20.6	20,018	15,045	△24.8
		再投資収益	12,483	14,473	15.9	22,784	22,227	△2.4
その他投資		9,404	12,189	29.6	△11,689	27,541	—	
	計	32,602	35,169	7.9	31,112	64,815	108.3	
業種別	エネルギー・鉱産物	6,351	19,411	205.6	13,244	19,986	50.9	
	製造業	18,349	18,243	△0.6	6,446	3,693	△42.7	
	貿易・輸送	9,505	2,638	△72.2	19,128	13,551	△29.2	
	金融・保険	4,820	9,119	89.2	22,438	29,672	32.2	
	持ち株会社	1,677	9,436	462.7	7,170	30,723	328.5	
	その他	15,613	8,316	△46.7	△3,792	3,963	—	
		合計	56,315	67,163	19.3	64,635	101,587	57.2

〔出所〕カナダ統計局

■対外直接投資は持ち株会社が増加

2019年の対外直接投資は前年比57.2%増の1,016億Cドルと大幅に拡大した。主要な投資先である米国向けは、M&Aが71.0%増加したことにより、9.7%増加した。米国以外へは「その他投資」が2018年の117億Cドルの引き揚げ超から275億Cドルのプラスに転じたことにより2.1倍に増加した。業種別では、持ち株会社が4.3倍の307億Cドルに拡大した。また、カナダ資産運用大手のブルックフィールド・アセット・マネジメントによる米投資会社オークツリー・キャピタル・グループの買収などにより、金融・保険は32.2%増加した。エネルギー・鉱産物は50.9%増加したが、貿易・輸送は29.2%減、製造業は42.7%減となった。

対外直接投資残高は前年比2.5%増の1兆3,913億Cドルとなった。最大の投資先である米国は0.8%増加した。欧州はスイスや英国向けなどの増加により8.1%増加し、アフリカは9.4%増加した。一方、中南米は4.3%減、アジア大洋州はオーストラリアや日本向けの減少により0.7%減少した。

2019年に実施または発表された対外直接投資の大型案件としては、ブルックフィールド・アセット・マネジメントによる買収のほか、エンタープライズ情報管理のオープンテキストによる米国のクラウドベースのセキュリティプロバイダのカーボナイト買収など、事業拡大を目的とした同業企業の買収が目立った。また、カナダ年金制度投資委員会とオンタリオ州教職員年金基金は、メキシコのインフラ整備会社、インプルソラ・デル・デサロージョ・イ・エル・エンプレオ・エン・アメリカ・ラティナの株式を取得した。

日本との投資関係は、日本からの直接投資残高の336億Cドルに対し、対日直接投資残高は84億Cドルにとどまっている。最近の日本企業の主な投資事例としては、電炉メーカーの共栄製鋼がモリ・コップ・アルタスチールの電炉事業を買収(157億円)したことが挙げられる。また、三菱重工業は2020年6月1日にカナダ航空機大手ボンバルディアのカナダエア・リージョナル・ジェット(CRJ)事業の買収を完了し、同日からMHIRJアビエーショングループの下で業務を開始した。

表5 カナダの主要国・地域別対内・対外直接投資残高

(単位: 100万カナダ・ドル、%)

	対内直接投資				対外直接投資			
	2018年末	2019年末			2018年末	2019年末		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
北米(カリブ諸国を含む)	444,667	486,534	50.0	9.4	844,026	854,841	61.4	1.3
米国	417,543	455,073	46.7	9.0	626,384	631,580	45.4	0.8
バルバドス	1,479	2,793	0.3	88.8	50,247	49,777	3.6	△0.9
バミューダ	12,831	13,251	1.4	3.3	58,081	63,502	4.6	9.3
ケイマン諸島	5,072	7,713	0.8	52.1	41,818	42,683	3.1	2.1
メキシコ	2,302	2,352	0.2	2.2	26,607	27,933	2.0	5.0
欧州	345,472	367,395	37.7	6.3	325,249	351,678	25.3	8.1
英国	59,845	62,349	6.4	4.2	101,208	106,989	7.7	5.7
ルクセンブルク	52,834	56,022	5.8	6.0	102,510	101,214	7.3	△1.3
オランダ	119,200	123,861	12.7	3.9	36,506	35,935	2.6	△1.6
ドイツ	17,755	18,106	1.9	2.0	11,384	11,553	0.8	1.5
スイス	44,214	51,749	5.3	17.0	9,671	16,015	1.2	65.6
フランス	13,991	14,804	1.5	5.8	9,808	10,320	0.7	5.2
アジア大洋州	96,590	99,880	10.3	3.4	107,574	106,873	7.7	△0.7
オーストラリア	9,550	11,183	1.1	17.1	39,879	37,810	2.7	△5.2
中国	20,015	21,194	2.2	5.9	13,590	13,391	1.0	△1.5
香港	21,618	20,929	2.1	△3.2	10,772	11,710	0.8	8.7
日本	33,650	33,638	3.5	△0.0	8,762	8,383	0.6	△4.3
中南米	15,568	17,002	1.7	9.2	70,182	67,144	4.8	△4.3
ブラジル	14,067	15,376	1.6	9.3	12,518	12,248	0.9	△2.2
アフリカ	2,350	3,077	0.3	30.9	9,802	10,720	0.8	9.4
世界	904,648	973,889	100.0	7.7	1,356,834	1,391,256	100.0	2.5

〔注1〕①地域の分類はカナダ統計局に基づく。②2019年は暫定値。

〔出所〕カナダ統計局

■カナダ・米国・メキシコ協定が2020年7月に発効

トルドー首相率いる自由党は、2019年10月の総選挙で少数ながら第一党を維持し、トルドー第2期

政権が11月20日に発足した。閣僚人事では、カナダ・米国・メキシコ協定（CUSMA）交渉で手腕を発揮したクリスティア・フリーランド前外相が副首相兼政府間関係相に任命された。CUSMAの批准について、カナダは2020年4月2日、国内手続きの完了を米国とメキシコに通報した。米国は4月24日に国内手続きの完了をカナダとメキシコに通報し、CUSMAは7月1日に発効した。CUSMAは34章からなり、新たにデジタル貿易や貿易円滑化、中小企業などの章が加わった。自動車分野の原産地規則では、域内付加価値率（RVC）が75%へ段階的に引き上げられるとともに、特定部品の域内調達義務、鉄鋼・アルミニウムの域内調達義務、高賃金地域の付加価値比率が用いられることになった。

カナダ政府は発効済みの自由貿易協定についても見直し交渉を行い、カナダ・チリ改正協定が2019年2月に発効し、投資やジェンダー、衛生植物検疫（SPS）、貿易の技術的障害（TBT）、公共調達の章が現代化もしくは新設された。さらに、9月にはカナダ・イスラエル自由貿易協定が改正され、4つの章が現代化され、9つの章が新設された。

日本との間では、2018年12月に環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定（CPTPP）の発効によりFTAが結ばれた。さらに、両国は2020年7月、有機畜産物などを対象に両国の有機制度の同等性を相互承認することで合意した。本合意により、日本の有機JAS制度に基づき日本国内で生産、加工または包装され、格付けされた有機畜産物や有機畜産物加工食品などを「organic」などと表示して、カナダへ輸出できるようになった。

交渉中の協定では、メルコスール（アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ）とは2019年8月までに7回の交渉を行い、ASEANとは同年9月に予備的協議が終了したことを発表した。

■ファーウェイをめぐる中国との関係は悪化

個別分野では、鉄鋼とアルミニウムをめぐる、トランプ米国大統領は2020年8月にカナダ製品に対する追加関税措置を再び発動したが、米国通商代表部（USTR）が9月に措置撤廃を決定したことから、カナダ政府は米国製品への報復関税措置発動を取りやめた。他方、米国政府によるカナダ産針葉樹材に対する相殺関税措置について、カナダ政府の要請に基づきWTO紛争処理小委員会（パネル）が設置されたが、パネルは2020年8月、米国の措置はWTOの補助金および相殺措置に関する協定に違反しているとの裁定を行った。

カナダ当局が2018年12月に華為技術（ファーウェイ）の孟晩舟副会長兼最高財務責任者（CFO）を逮捕したことで、中国との関係は悪化している。中国政府が2019年3月にカナダ農業大手2社からの菜種の輸入を禁止するとともに、カナダ産菜種の輸入検疫を強化したことに対し、カナダ政府は9月にWTOに対し、二国間協議を要請した。また、中国は6月には、輸出証明書の偽造が発覚したとしてカナダ産食肉類の輸入を一時停止したが、中国国内でアフリカ豚コレラが流行する中で、11月からカナダからの輸入を再開した。ブリティッシュ・コロンビア州の上級裁判所では2020年1月から孟氏の米国への身柄引き渡しに関する審理が行われている中、中国の裁判所は同年8月末までに4人のカナダ人に麻薬関連の罪で死刑判決を言い渡している。

主要経済指標

	2017年	2018年	2019年
①人口:3,797万人(2020年4月推計)			
②面積:998万4,670km ²			
③1人当たりGDP:4万6,195米ドル (2019年)			
④実質GDP成長率 (%)	3.2	2.0	1.7
⑤消費者物価上昇率 (%)	1.6	2.3	1.9
⑥失業率 (%)	6.3	5.8	5.7
⑦貿易収支(100万カナダ・ドル)	△24,143	△22,131	△18,443
⑧経常収支(100万カナダ・ドル)	△60,194	△55,499	△47,005
⑨外貨準備高(グロス) (100万米ドル)	86,678	83,926	85,297
⑩対外債務残高(グロス) (100万カナダ・ドル)	4,221,382	4,303,240	4,777,435
⑪為替レート(1米ドルにつき、 カナダ・ドル、期中平均)	1.30	1.30	1.33

〔注〕⑦:国際収支ベース(財のみ)
〔出所〕①②④~⑧⑩:カナダ統計局、③:世界銀行、⑨⑪:IMF(IFS)

(お問い合わせ先)

海外調査部 米州課

ORB@jetro.go.jp